

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Retrospective analysis on gestational weight gain in twin pregnancies with favorable perinatal outcomes: The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

良好な周産期結果を得た双胎妊婦における妊娠中の体重増加の後方視的分析: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Japan Academy of Midwifery

年: 2023 DOI: 10.3418/jjam.JJAM-2022-0043

筆頭著者名: 高岡 智子

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

妊婦の体重増加量の基準は母子手帳にも示されています。しかし、双子を妊娠している双胎妊婦の体重増加の基準は日本にはありません。本研究は、双胎妊婦の妊娠中の最適な体重増加量を決めるプロセスとして、周産期の結果が良好であった日本人双胎妊婦の妊娠中の体重増加量を妊娠時期別に記述することを目的としました。

方法:

児の出生体重、分娩週数、母体合併症の観点から、周産期の結果が良好であった双胎妊婦 321 名を選択しました。各妊婦において体重増加量の回帰曲線から、妊娠 13、26、36 週の体重増加量を推定しました。各時期の体重増加量の推定値を母体の体格(BMI: body mass index)別に報告し、本邦の診療ガイドラインに引用されている米国 Institute of Medicine: IOM による推奨値と比較しました。

結果:

妊娠 13、26、36 週の推定体重増加は、標準 BMI の女性で 1.08 kg (四分位範囲: -0.57-2.38)、8.22 kg (5.78-9.84)、13.10 kg (10.18-16.15)、BMI が低体重の女性で 1.87 kg (0.05-2.78)、9.40 kg (7.68-11.44)、14.57 kg (12.47-18.08)、BMI が肥満の女性で 0.52 kg (-1.27-1.59)、4.10 kg (2.35-7.01)、8.58 kg (5.05-11.52)でした。いずれも IOM 基準を下回っていました。

考察(研究の限界を含める):

妊娠各時期の推定体重増加量はいずれも米国 IOM の推奨値よりも低い結果でした。IOM の基準は、小柄で痩せ型の日本人女性にとって過剰である可能性があり、これを日本人双胎妊婦の指標として用いることは不適切であるようでした。これまで日本人双胎妊婦に関する多施設のデータから妊娠時期別の体重増加量を示した研究がほとんどなかったため、本結果は双胎妊婦の妊娠各時期の体重増加量を評価する際の有用な指標になると考えます。しかし、本研究で示した範囲の体重増加量にある妊婦では、実際に有害事象の発生リスクが低いのか今後検証が必要です。また、妊娠中の体重の測定回数を増やして推定の精度をさらに高めることが望まれます。

結論:

周産期の結果が良好であった標準 BMI の日本人双胎妊婦では妊娠 36 週時点で約 13 kg の体重増加がありました。妊娠各時期の体重増加量は、IOM による推奨値よりも低く、IOM の推奨値を元にした体重増加は日本人双胎妊婦には過剰である可能性があると考えられました。